

製品名: IL-2R α (リン酸化 Ser268) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04837**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	IL2RA
別名	IL2RA; Interleukin-2 receptor subunit alpha; IL-2 receptor subunit alpha; IL-2-RA; IL-2R subunit alpha; IL2-RA; TAC antigen; p55; CD antigen CD25
遺伝子 ID	3559.0
SwissProt ID	P01589
免疫原	抗血清は、ヒト IL-2R アルファ/CD25 の Ser268 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 223-272

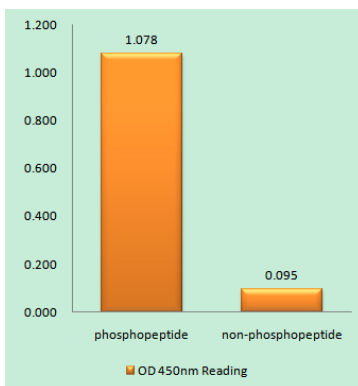
背景

インターロイキン 2 (IL2) 受容体 α 鎖 (IL2RA) および β 鎖 (IL2RB) は、共通 γ 鎖 (IL2RG) と共に、高親和性 IL2 受容体を構成します。ホモ二量体 α 鎖 (IL2RA) は低親和性受容体を、ホモ二量体 β 鎖 (IL2RB) は中親和性受容体を形成します。通常は膜貫通タンパク質である可溶性 IL2RA は単離されており、細胞外タンパク質分解によって生じることが明らかになっています。選択的スプライシングを受けた IL2RA mRNA も単離されていますが、それぞれの重要性は現在のところ不明です。この遺伝子の変異は、インターロイキン 2 受容体 α 欠損症と関連している。[RefSeq 提供、2009 年 11 月]、疾患: IL2RA の遺伝的変異は、インスリン依存性糖尿病 10 型 (IDDM10) の感受性と関連している[MIM:601942]。機能: インターロイキン-2 受容体。、オンライン情報: IL2RA 変異データベース、類似性: 2つの Sushi (CCP/SCR) ドメインを含む。、サブユニット: α 鎖と β 鎖の非共有結合型二量体。IL2R は、高親和性二量体、中親和性単量体 (β 鎖)、および低親和性単量体 (α 鎖) の3つの異なる形態で存在する。高親和性および中親和性型は、 γ 鎖とも関連している。、

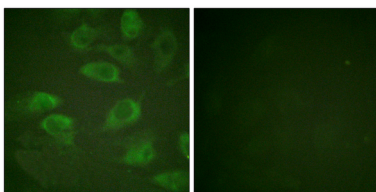
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;エンドサイトーシス;Jak_STAT;造血細胞系統;

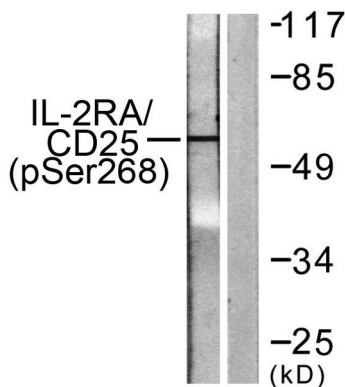
画像データ



IL-2R α /CD25 (リン酸化 Ser268) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IL-2R α /CD25 (リン酸化 Ser268) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



IL-2R α /CD25 (リン酸化 Ser268) 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。